

豊川市教育委員会 生涯学習課発行

発掘だよりNo. 35

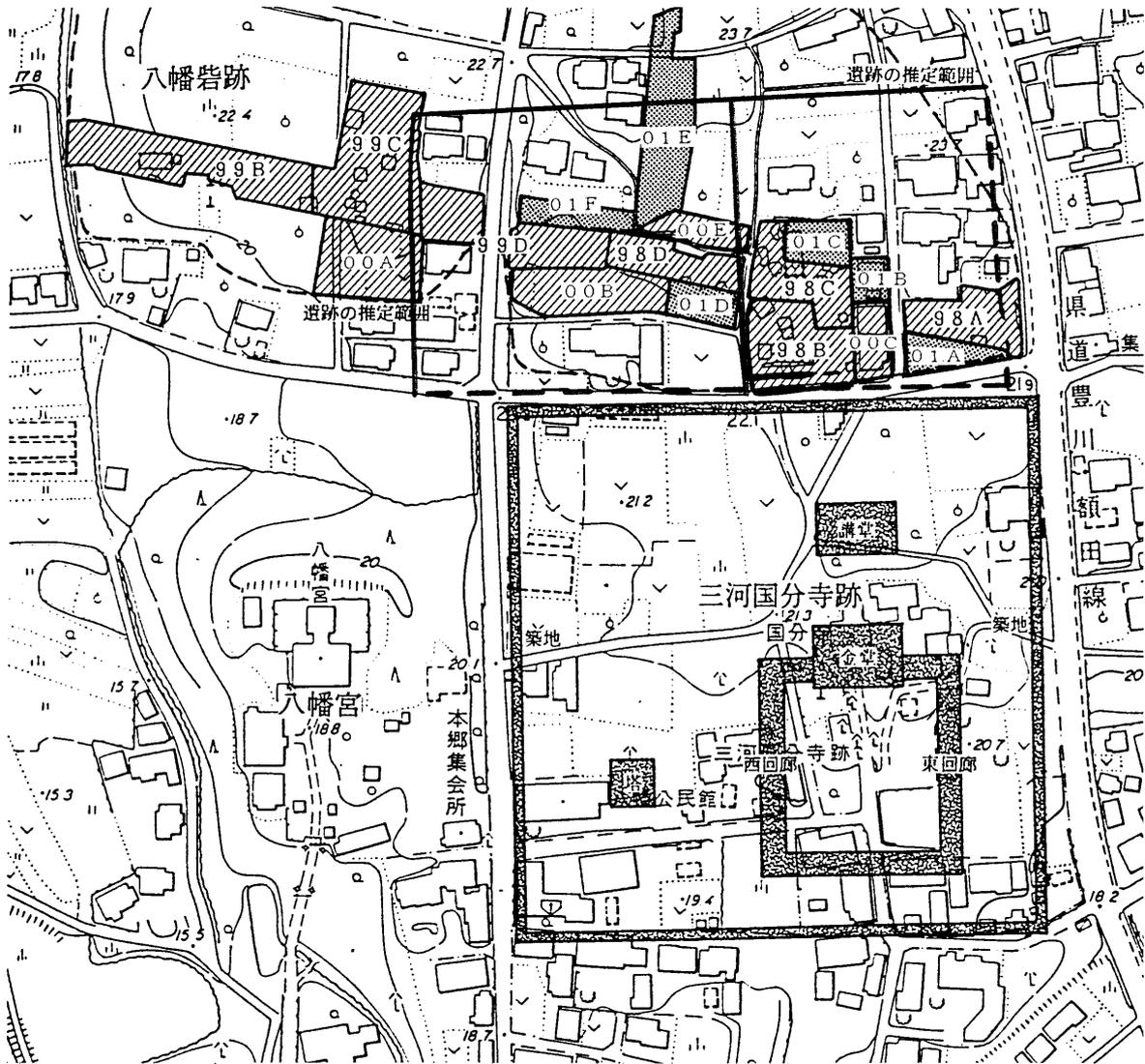
平成13年9月8日(土)

〒442-8601 豊川市諏訪1丁目1番地

TEL (0533) 89-2158 (直)

平成13年度国分寺北遺跡発掘調査の概要

市教育委員会では、豊川西部土地区画整理事業の事前調査として平成10年度から国分寺北遺跡（三河国分寺の寺院地）の発掘調査を行ってきました。今回の調査地点は三河国分寺伽藍地に北接する地点で、6カ所の調査区を設けて行いました。



三河国分寺跡と国分寺北遺跡の調査区

調査概要

- ・調査期間 平成13年4月9日から9月7日まで
- ・調査場所 豊川市八幡町東赤土地内（豊川西部土地区画整理事業地区内）
やわたちようひがしあかつち
- ・調査主体 豊川市教育委員会（担当 生涯学習課 文化財係）
- ・調査理由 豊川西部土地区画整理事業に伴う事前調査
- ・調査面積 2,450 m²（平成10年度からの累計は11,932 m²）

確認された遺構

今回調査を行った地点では、りつりょうま律令期（奈良時代～平安時代中期）を中心とし、古いものでは弥生時代後期から新しいものでは、近世に至るまでの様々な遺構が確認されています。

なかでも特徴的なものが、律令期の国分寺に関連する遺構群で、次に挙げたものが検出されています。

大型の掘立柱建物跡1棟（2棟）、大型竪穴住居跡1軒、通常の竪穴住居跡5軒（38軒）、廃棄土坑、溝、ピット等 ※（ ）内は平成10年度からの累計

主要な遺構については以下で述べます。

寺院地の区画溝SD348（01E地点）

01E地点から検出された溝で、幅約1.5 m、深さ約20 cmで、約16 m分を確認しました。この溝はこの地点以外にも過去の調査で98D地点、99C地点、00E地点からそれぞれ確認されています。これら過去の調査区から確認された溝をつなぎ合わせると、東西が約110 m、南北が約100 mの大規模な方形区画となることが、今回新たに判明しました。

出土遺物から9世紀代の溝と考えられ、その埋土の状況から排水の機能を持ったものではなく、区画をする目的で掘られたことが分かっています。

大型掘立柱建物跡SB001（01C地点）

01C地点から検出された南北棟の大型掘立柱建物跡で、規模は南北5間（15.0 m）東西2間（5.9 m）で、それぞれの柱堀形も直径、深さともに約1 mと破格の規模で構築されています。

どういった機能の建物になるのかは分かりませんが、規模から考えて、国分寺の重要な建物になる可能性が高いと考えられます。

大型竪穴住居跡SH014（01C地点）

01C地点から検出された竪穴住居（建物）跡で、規模は7.5 m×7.5 mと他の竪穴住居跡と比較するとかなり大型の建物と言えます。

おそらく、通常居住する竪穴住居ではなく、国分寺に関連した特殊な使われ方をした建物であると推定されます。

これらの遺構の性格

大規模な区画施設やその中から確認された建物群などを、出土遺物、検出状況、他国の例などをもとに性格について考えてみます。

まず、須恵器、灰釉陶器、瓦類といった出土遺物からこれらの遺構は、国分寺が最も繁栄を極める9世紀代のものであることが分かっています。また、平成10年度の調査で、今回の調査区に近接した地点で「金寺」「僧寺」と墨書された須恵器が出土していることなどを考えると、これらの遺構群は国分寺の経営に密接に関連した施設である可能性が考えられます。

また、溝で囲われた方形の区画を持つことから、この区画された一画が、寺の経営地域としての独立した部署（院）を形成する可能性が考えられます。

こういった「院」の存在は他国の調査例では、上総、下総、下野、武蔵などの国分寺・尼寺関連の調査でも確認されており、「政所院」「修理院」「厨院」「菌院」といった院の機能まで特定されている例もあります。

今回確認された遺構群もこれらの調査例と合致するところが多く、三河国分寺の経営地域としての「院」である可能性が高いと考えられます。

なお、今回確認された区画施設以外にも、まだ他に同様の区画施設が存在する可能性が考えられ、いくつもの「院」をもって寺院地（寺院経営地域）が営まれていたものと推定されます。

まとめ

今までの認識では、「寺」というと、いわゆる築地塀で囲われた伽藍地の部分のみと考えられていましたが、最近伽藍地外の調査例が増えてきて、寺の経営地域（寺院地）が伽藍地の外側にまで広がる事が分かってきています。

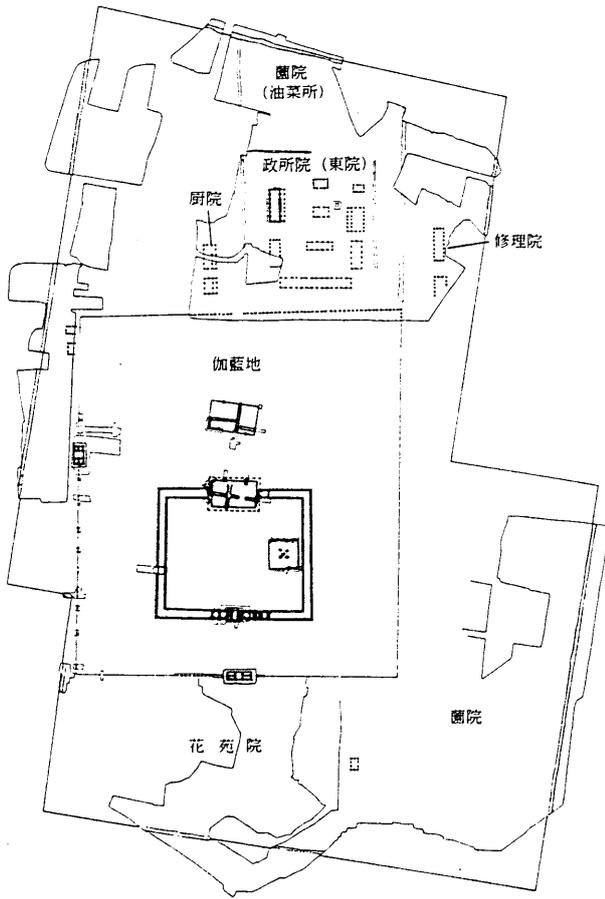
三河国分寺関連の調査でも、伽藍地外の遺構・遺物の状況から、寺の経営地域が伽藍地の外側にまで広がる事が分かってきました。

今回確認された「院」は一つだけですが、周辺からも区画施設と考えられるような溝や、建物群が検出されていることから、これ以外にも他の「院」が存在することが推定されます。

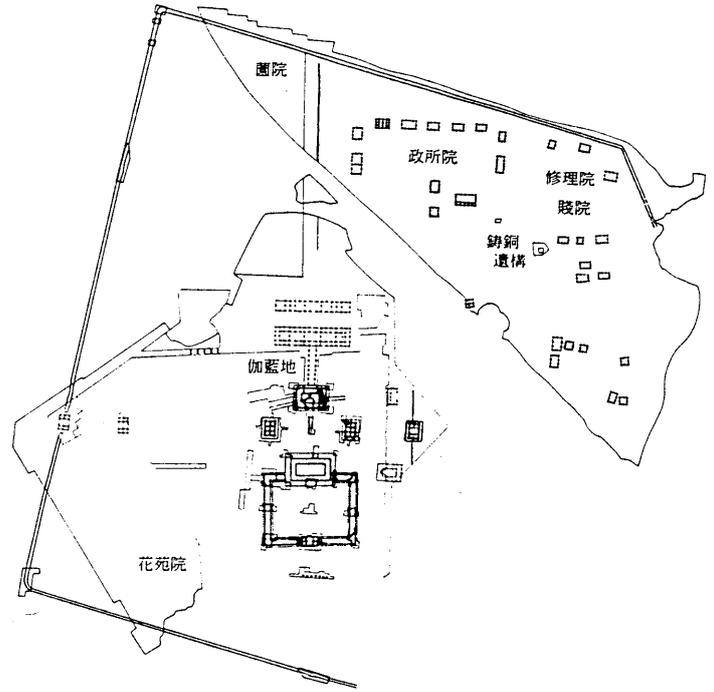
今後はこういった寺の経営地域まで含めた地域を「寺」と認識したほうが良いのかも知れません。

今後も本遺跡の調査は継続して行われます。今後の調査に期待がかかります。

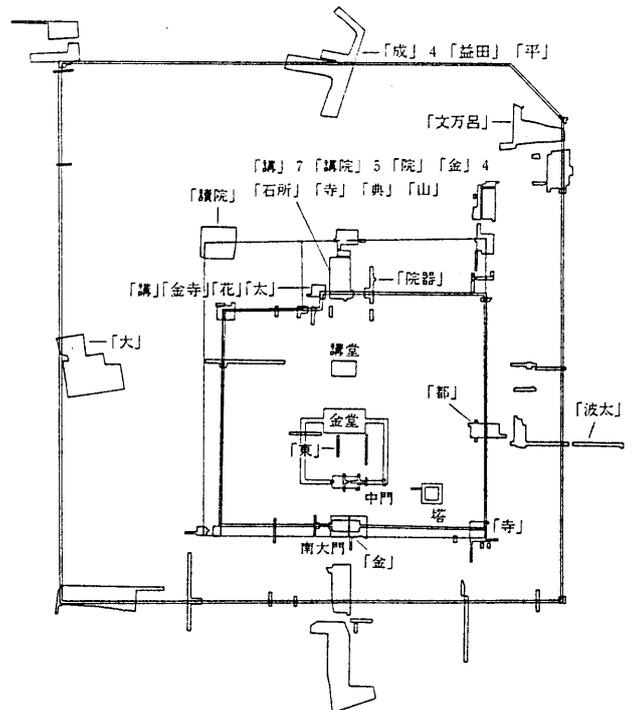
【参考】



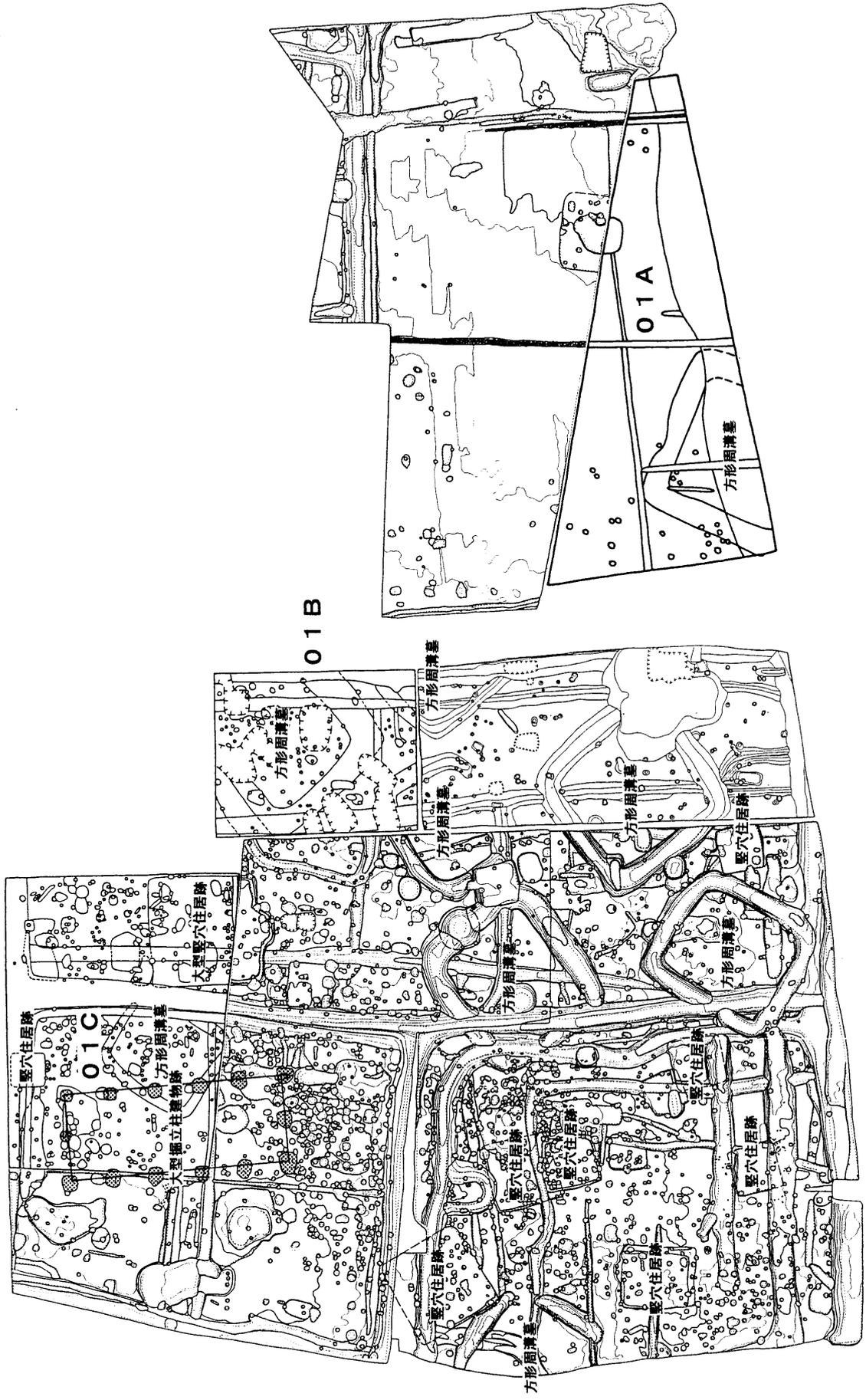
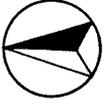
上総国分寺跡



上総国分尼寺跡



下野国分寺跡



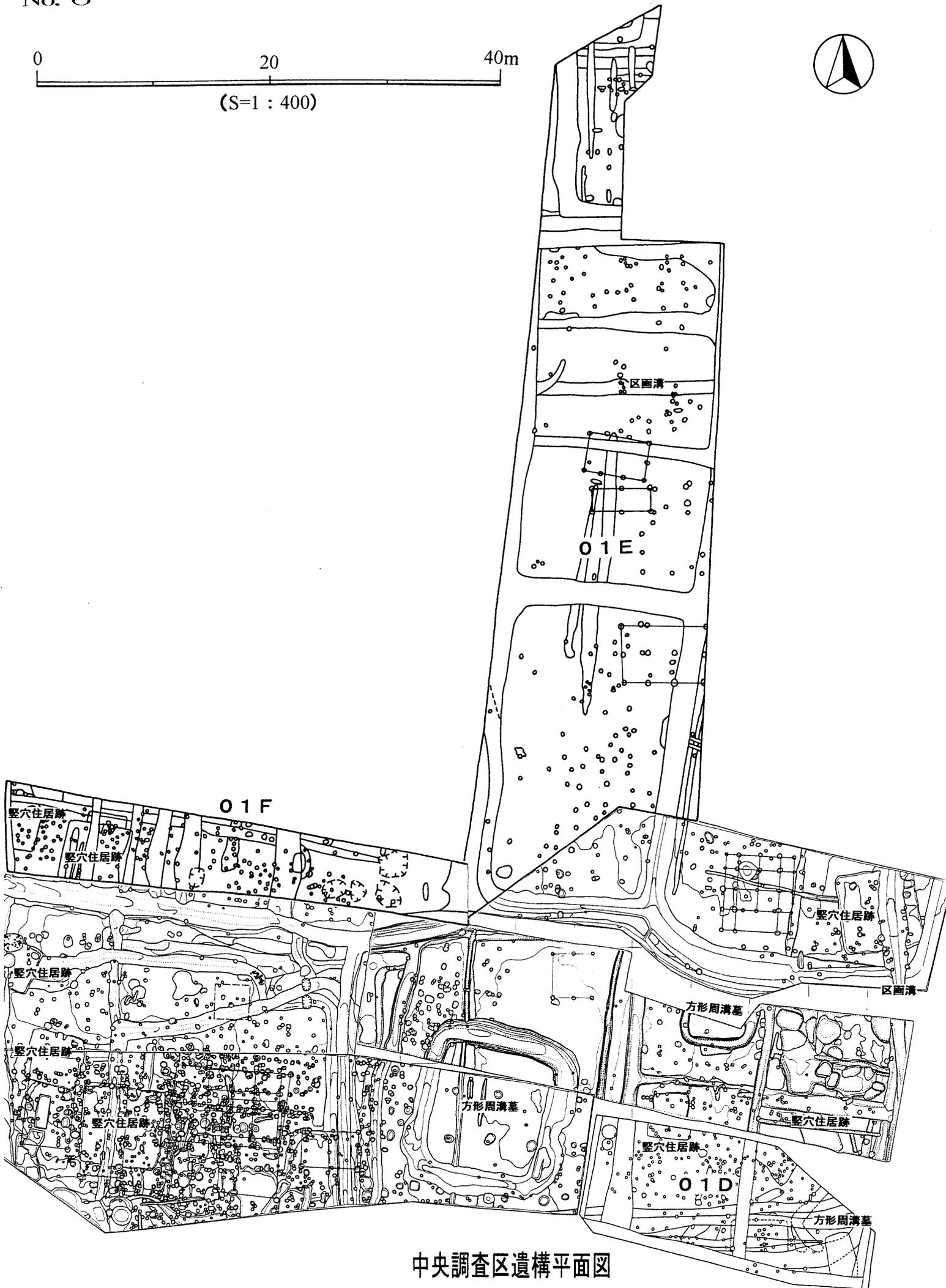
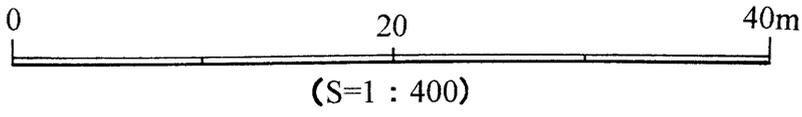
40m

20

0

(S=1:400)

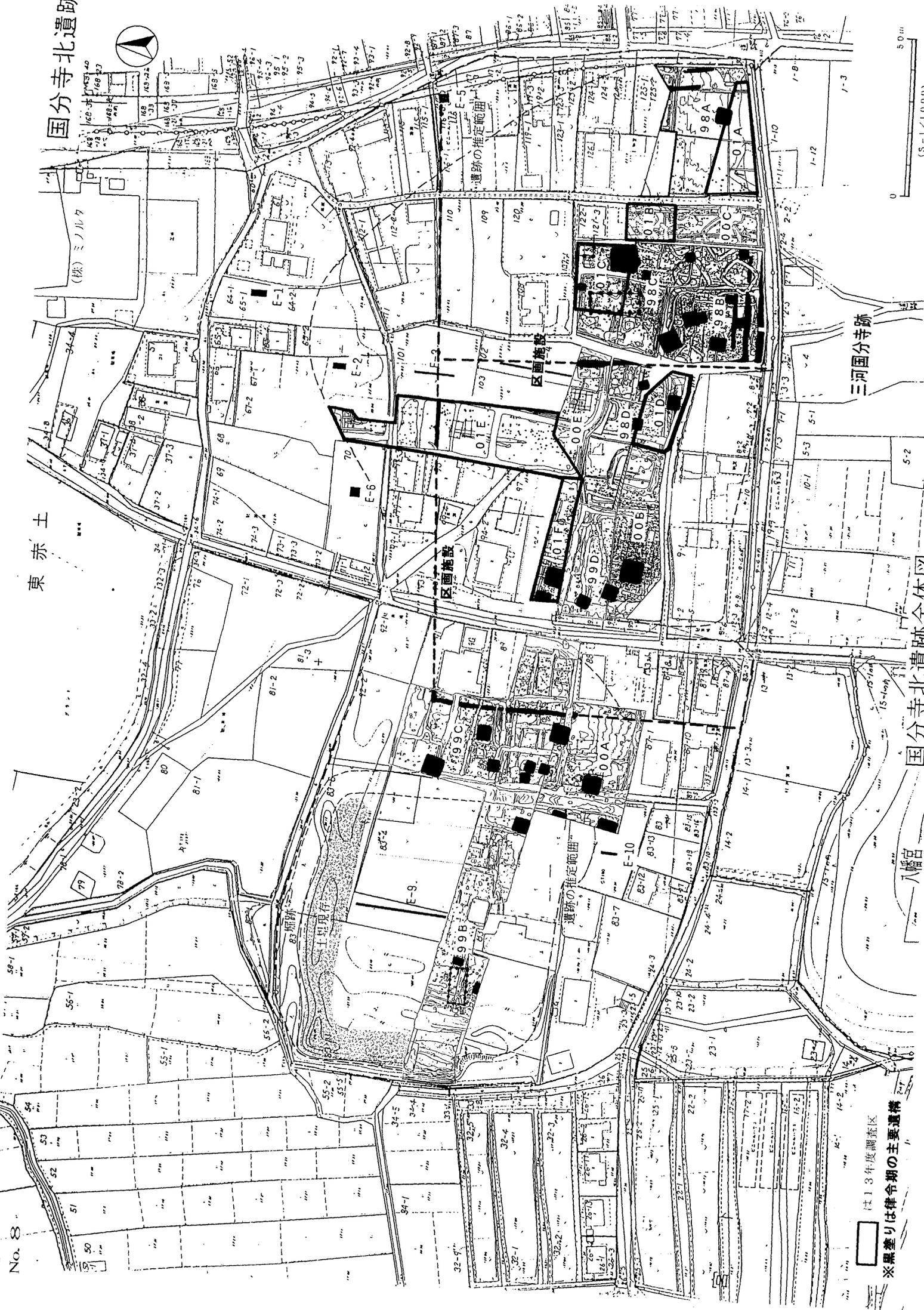
東側調査区遺構平面図



中央調査区遺構平面図

東赤土

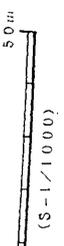
国分寺北遺跡



国分寺北遺跡全体図

は13年度調査区

※黒塗りは律令期の主要遺構



(S-1/1000)